

次に、1番豊村議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。

議長より登壇の許可をいただきました1番豊村貴司、今議会最後の一般質問、緊張感を持って臨みたいと思います。よろしくお願いします。

今議会、一番最初に国保の話がありました。国保の単年度赤字、そして累積赤字、これらの問題は市における財政に影響を及ぼすものであります。加えて、平成28年度からは地方交付税の合併算定替が一本算定に向け段階的に減らされ、平成33年度には、今と比べて13億円も交付税が減ることになります。すなわち、市で使えるお金が年間13億円も減ってしまいます。13億円とは、生活保護、障がい者や子どもの医療費助成、保育など、福祉に関する政策の市の負担分に相当する額であり、いわば13億円減ということは市の福祉政策が全くできなくなるということです。こういったことから、これからの武雄市を見たとき、収支の面で財政についてしっかり考えていかなければなりません。

先日、政府見解として来年度から各都道府県での医療費の支出目標を決めるようなことが報道されていきました。いわゆるこれが医療費の抑制につながることも懸念されます。必要な方に必要な医療が提供できない、そういったことにならないか大変心配するところであり、私もこれまでリハビリの職員としてやってきましたが、かつてはリハビリを受けられる日数の制限があったり、大変現場が混乱したものでした。

武雄市においては、冒頭述べたようなこれからの財政運営の中においても支出を抑えようとするあまり、この医療費に対する政府見解の話のような懸念が生じないよう市民にとって必要なことは、優先順位をつけながらでもしっかり取り組まなければならないと思います。必要な支出はありながらも武雄市の台所事情が安定するよう武雄市市民、地域全体が認識していくことも大切です。

質問に入りますが、今回はスライドにも上げてますように大項目で2項目、教育についてと観光について質問を行います。

まず教育について。先ほど財政についても地域全体で認識していくことが必要と述べましたが、その地域全体ということで新しい学校づくり、つまり官民一体型の学校づくりに向けての検討を行う地域協議会、これは設置予定を含め今議会において話がありましたが、市内全体に予定を含め設置されてきているという報告がありました。

そこで、まず最初の質問を行います。地域協議会の目的は説明会等の資料にもあるように官民一体型学校の創設に向けて取り組むとありますが、そのこと以外にこの協議会を設置すること、ほかに狙われているようなことがあるのでしょうか。この点について伺います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ありません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありませんということでしたが、それではですね、これに関してちょっと質問をいくつか重ねていきたいと思います。

今回、地域協議会がある中で、手を挙げたところが選考の対象になっていくっていうことでした。これから先、将来的にですね、長期的に見たときに新しい学校づくりの対象となるところがですね、あくまでもこの手を挙げたところだけになるのか、または武雄市内全体に広げていきたいと将来的には考えていらっしゃるのか、その点について確認も含めてお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

少なくとも私自身は、今回来年度から2校または3校というふうに、時と場所を変えて言い方変えてますけれども。それで恐らくね、またいくつかの小学校の校区が、地域協議会が、またぜひっていうふうな話になると思うんですよね。あくまでも、今のところ官民一体学校のための地域協議会というのは、今までと考えは、ちょっと、変わっていないんですけどね。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

それではですね、ちょっと続けて質問なんですけど、今回地域協議会においてですね、いくつかパターンが出てくると思います。例えば、今年度手を挙げられたところで選考対象となったところ。次は、手を挙げたけれども選考対象とならなかったところ。もう一つは、手を挙げなかったところ。この手を挙げなかったところというのは、いろんな要素があると思います。例えば準備が間に合わなかったとか、1年間ちょっと様子見たいとかですね。または、その意思に至らなかったとかっていうこともあると思いますが、そういうさまざまな形態がある中でですね、来年度こういった地域協議会はどういうふうになっていくのかなというところをお伺いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

わかりませんので、どういうふうにしたらいいのか、まずそれを言ってから質問に入って

ほしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

これまでもですね、各地域とかで説明会等があつて、教育長もその中でコミュニティースクールという話もされております。文科省の言葉によりますと、コミュニティースクールとは学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組みですっていうふうにあります。いろんな説明会ある中でいろんな人と話をしながらですね、今回のその地域協議会、官民一体についての検討というのが目的ではあるんですけども、私も感じたところでもありますし、ほかの方も言われてた分です、こういったコミュニティースクールという言葉も出てきました。

そういった意味で各地域にですね、学校区にそういう協議会が設置される、しかも学校長っていうのが軸にいて、地区の区長さんであったりとか保護者の方、育友会の方、さまざまな地区の幅広い世代の人たちがかかわってくるということですね、私としては、やっぱり今回官民一体についての検討を行うというのが目的であっても、それだけで終わるといのはちょっともったいないんじゃないかなと。先ほど、猪村議員のほうでも話がありました。そういった形ですね、地域の中で学校と地域が一体となって子どもたちの教育であるとか子どもたちの環境を一緒に見ていく、そういうふうに進化していけばいいんじゃないかなというふうに思います。これがですね、武雄市内全部の校区でできるということは全部の地域がそういうふうになるわけですから、武雄は地域全体で子どもたちのことを見ているというふうになればですね、それはもうもっと魅力ある武雄になってくるんじゃないかなというふうに思います。

こういった意味で、狙っているところはないですかってお伺いしました。その点についてお考えをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、そこはそうかもしれませんね。今まで官民一体学校を協議する場として地域協議会を議会のアドバイスも得てしたんですが、これだけで終わるのはちょっともったいないかなというのは御質問を受けながら思いました。

実際は、今まちづくり協議会が活発なところとそうでないところとありますけれども、活発なところだと教育もそこは担わなきゃいけないのかというふうになりかねないんで、やっぱりまちづくり協議会と別個の学校の地域協議会っていうのは——官民一体型学校のための

地域協議会とっていたんですが、さまざまな——例えば先ほど話ができましたコミュニティースクールとかね、いろんな問題をそこで前向きに話し合うっていうのはあるのかなっていうふうに思いました。その観点でいうと、豊村議員も御指摘のあったように学校長が入るといのはポイントなんです。しかも副会長で。ですので、これが我々が、教育長がどう考えているのかはちょっと別にしてもね、我々が思いもしなかったような方向に、子どもたちにとってね、あるいは地域にとっていい方向に進むのであれば、地域協議会がいろんな場になっていただければありがたいなというふうに思います。

ただ1個問題は、北方町と山内町なんです。これ地域協議会が1つ、2つか。2つになったんだっけ。（「協議会は2つ、最終的には2つ」と呼ぶ者あり）最終的に2つか。ここだけなんです。ほかに町に、例えば吉川さんの朝日町だったら朝日町に1つというふうに。鉄好さんの橋町だったら橋町に1つになってるんですけど、山内と北方の場合は……（「武雄も」と呼ぶ者あり）武雄もそうか、武雄もそうですよ、そうでした。灯台もと暗しでした。ですので、そういうふうに、そこが2つにこう分かれるというのが、本当に校区で分けていいのかなというのがあるんで、そののやっぱり調整は必要なのかなというの思っていますけど、いただいた御提言はちょっともう一回教育委員会と私どもで話し合っ、今後どうするかについてはね、また豊村議員を初めとして議会とよく相談をさせてもらえればありがたいと、このように考えております。前向きな提言ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。今回の選考に関して手を挙げたところ挙げてないところ、その対象にならなかったところも、そこで終わりではなく、ぜひともそういう形でですね、地域としては子どもたちを見ていくというふうにつながればと思います。私も武雄町のまちづくり推進協議会にも入っていますが、子どもたちの環境についてとかっていうですね、そこで委員会をという話がちらっと出たりしたこともありました。なかなかそこまではいかなかったんですが、こういう組織的な部分でもですね、今後の武雄全体につながっていくことをお願いしたいと思います。教育長、合わせて何かその点について。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの猪村議員さんのところで、最後に申した第1番目がやっぱり環境という、環境づくりを、教育環境をより高めていくということを申したわけです。私が何よりありがたいと思ったのは、本当に忙しい区長さん方がですね、区長会長さんを初め先に立ってですね、会議を開いていただいて協議していただいと。これは本当にこれまでになかったことであ

りますので、ぜひですね、議員おっしゃるような体制ができたらいいなということを強く思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。

続きまして教育環境についてということで、ちょっとお話をしたいと思います。先日ですね、市長と上田議員と私も一緒に市内の小学校のほうをいくつか回しまして、施設の設備など伺ってきました。ちょうど行ったのが7月だったですかね、夏ということもありまして、特にやっぱり暑いという意見がですね、聞かれました。そこでですね、これは武雄小学校の給食洗浄室、食器を洗うところですね。ここも湯気がどんどん出るって、暑いというふうな話がありまして、早速対応をされまして、このエアコンがついて暑さ対策がとれたということです。職員さんもエアコン入ったことで違いました、ということで伺っております。これは御船が丘小学校の給食の配膳室ですね。できたものを前に置いとく部分ですが、ここにもエアコンをつけていただきました。これは御船が丘小学校のにこにこホールですね。放課後に子どもたちがここで宿題をしたりというのがありますが、ガラス窓が多いので直射日光がどんどん入るということで、すごく暑さとか、まぶしさとかすごくあるという意見がありまして、これに関しても市長のほうで意見いただきまして、カーテンを早速つけていただきました。こういった素早い対応、よかったと思います。ありがとうございます。

先ほど暑さということで言いました。ちょっと私も調べたんですけども、これ7月の最高気温の平均値です。一番端っこが1977年、私が5歳のときですね。7月の最高気温が、その年は一月で平均が何度だったかという部分をずっとあらわしております。一番端っこは、ことしなんですけれども、私が子どものときと比べれば平均ではですね1度くらい上がっています。よくあの……（発言する者あり）はい、これ見たらですね、そういったところです。次がですね、7月の真夏日の日数。真夏日は30度以上だったときですね。グラフであらわしているんですが、これが一番左が1970年、80年代なんですけど、そのころと比べると山なりがですね、やっぱり最近は平坦になってきている。真夏日の日数というのが増えてきているのかなというふうに思います。

〔市長「あんまり変わらんね」〕（笑い声）

もう一点、これは猛暑日です。猛暑日は35度以上だったときです。これを見てもらったらわかると思いますが、猛暑日の日数もですね、以前と比べると一番多かったときは12件、1994年ですね、私が22歳のときです。やはり昔と比べると猛暑日、暑い日というのが一番最初にお見せした最高気温の平均は、そんな大きな差はないんですが、暑い日というのは増えているのかなというふうに思います。過去37年分データをとってみてですね、こういうふ

うな結果が見えました。

まあ、こういった点からですね、本来子どもたちの教室にもというふうなところも思いますが、先ほどちょっと給食のほうの対応をしていただいた分です、私も気になったので、その後いくつか学校、給食をですね、回らせていただきました。意見を伺いました。これ給食の方が調理場で着られてる姿です。これがですね、給食の調理室内の室温、湿度。これを毎日チェックするように決まっていますので、その7月分の記録をですね、ちょっと私も見せていただきました。これはですね、クーラーがついているところの調理室です。青でちょっと示しているところは調理前よりも温度が少し下がっているところ、赤で出してるのはちょっと上がったところということになっています。湿度も50%ぐらいで保たれてはいます。これは別の学校で、ここも空調が入っていることで、ある程度保たれています。もう一点ですね、一番最後に出したところは、ここは空調がないところですね、調理中32度とかですね、一番低くて27度、一番高くて33度、まあ7月ですね。先ほどのような完全防備の状態、ウルトラクールビズではないわけですね。あの状態で、この温度の中で調理をされとる。すごく過酷な状況だなということが、こういった数字からもちょっと思いました。

これは洗浄室です。先ほど、武雄小学校のほうで1台エアコンをつけていただきましたって言いましたが、各学校を回っていてですね、給食の方、スタッフさんが特に言われていたのがですね、この洗浄室……（「そうそう」と呼ぶ者あり）この洗浄室がもう暑くてたまらないと。食器を洗う湯気が立ち込める中で、市内大体どこもここには空調はないという状況です。この中で2時間とか、その規模にもよりますが作業をしないといけないと。これは洗浄室での作業着ということで、先ほどの調理のときと比べると半袖にはなっているんですけども、それでもこういった暑い格好をして2時間とか、あの中で作業をすると。データなんですけれども、ちょっと当たっていただきまして見ました。この14時のところ、28度、30度、30度。28度のとき湿度が85%、30度で70%。こういうふうな中ですね、いつもああいう格好をして作業を2時間とかされると。私だったら倒れるだろうなというふうに思いますし、いろいろ伺ってですね、熱中症になるぐらいの感じの人とかいませんかと聞いたら、それぐらい具合悪くなることもあるというふうな話もありました。今回武雄小学校、御船が丘小学校と対応していただきましたが、市内、ほかのところもですね、同じようにやっぱりあるわけです、そういった状況がですね。ということで、冒頭述べました必要なところには必要な部分があると思います。

この点について、洗浄室、給食室、一度確認をしていただきましてですね、対応ができないかと思えます。この点について御意見をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

まず給食室へのエアコンの設置につきまして、基本的に全部の給食室の食中毒の観点から調理室とあと調理員さんの休憩室、この2カ所には基本的にすべてエアコンは設置してます、現在。

今、議員から御提案の洗浄室でございますけれども、確かに高温での作業になりますので、特に夏場については大変御苦労されているということは十分に私どもも認識をしているところでございます。ただエアコンの設置につきましては、いろいろ学校側の要望も——例えば給食室でも、下処理室あるいは配膳室もつけてほしい。あとは普通の会議室、あるいは相談室、それと学校側全体からは普通教室と特別教室にもつけてほしいということで、いろんな要望が上がっております。そういうことで今、学校施設の整備ではですね、耐震化の工事を優先させてもらってますので、エアコンの設置につきましては、まずは学校とも話をしながら、優先順位をまずは検討させていただきたいというふうに考えております。

〔市長「それ違うやろ」〕

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この答弁、だめだと思いますよ。だって私もその洗浄室入りましたけど、とても、そしてしかもね、そこ半袖とか許されないとこなんですよね。半袖短パンで。そういった中で、多分あそこで、しかも湿度がここには70%と書いてありますけど、少なくとも僕が入ったときは80%超してるんですよ、30度超して。そんな劣悪な環境の中でね、給食に携わる方々が本当にかわいそうに思いましたよ。ですので、この件については優先順位を第1に上げます。上げた上で、対応をします。だから、その半袖で対応できるところと、こういった衛生上の観点から防備をしなけきゃいけないってことで、おのずと分けていかなきゃいけないので、それはおのずとね、学校側の要望っていうのも大事ですよ。大事なんだけど、こういう弱い環境で、僕も見に行って初めてわかったんですよ、豊村さんたちと。だから、そこはやっぱりね、我々としては優先順位は我々がつけてさしあげるべきだろうというふうに僕は思いますけどね。あとは、教育委員会が考えることです。

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。ぜひとも——さまざま確かに要望はあると思います。ただですね、やはりもうこの環境というのはですね、とてもじゃないと思います。特に学校とかというのは、あしたすぐできるとかっていう、工事が入るとかっていうものでもなくて、タイミングというのもあったりしますので、ぜひとも早めに検討いただいて対応していただければというふうに思います。

今回、先につけていただいた分の空調が、聞いたところによると、ほかのところで使っていない空調をそちらに持ってこられたというふうなことで聞きました。これは私もすごいいいことだなと。そういう備品をですね、ほかのところで必要とするところにうまく活用する、あるものを使うというふうなことです、こういった点がよかったと思います。その備品共有という部分です、ちょっと私も思いました。

これは、そういった点でいろいろ調べていたときに、神奈川区のケースがちょっと出てきました。消耗品・備品共有制度ということで。消耗品リユース制度。よく私も仕事場いるときはボールペンよく使うので、インクがなくなったら事務室に行って芯だけ変えてっていう形を、職員みんながそういうふうにしてたわけですね。そういうふうな事務用消耗品を共有したりとかですね、買うのも一括購入をされたりとか。それ以外に各課で所有しているレンタル可能な備品とかですね、そういったものをリストをつくって必要なところが借りれるように、そういうふうな対応をされたというのが情報としてありました。ちなみにこれは出されていたグラフなんです、青が平成18年で、紫が平成19年度、赤が平成20年度。この取り組みを始めて、最初18年度が約40万円ぐらい物品に必要な部分が、20年度には10万円ほどになっていると。そういったことですね、消耗品をうまく共有するとか、在庫をリストアップしてうまく使えるようにする。こういった対応でコストカットできる部分、こういったものもあるのかなと。実際に、こういうふうな神奈川区、ほかの自治体でもそういう同じような分を書いてあるところがありました。

今回のですね、そのエアコンの空調をうまく活用されたという部分です、武雄市としても——例えば、私も学校関係者からテントの共有とかっていう話も聞きました。運動会の時期、日にちが違ったりするので足らんときはほかの学校から借りたりということもできるんじゃないかなという、実際の学校に勤めていらっしゃる方からも伺いました。

例えば、その学校という枠であったりとかっていうものもあるんですが、各担当課とかじゃなくてですね、横のつながりでそこは一括してですね、できる範囲の一括とかをしてうまくコストカット、冒頭でも述べました財政という部分にもつながりますが、コストカットにつなげていくと、こういった取り組みも必要かなと思いました。この点について、見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上教育部長

○溝上教育部長〔登壇〕

先ほどエアコンの話ございましたけれども、今、武雄市で例えば学校の改築工事、先ほどの部分は山内給食センターの解体でしたけれども、そういう場合はいらなくなったそういう設備あるいは備品等はすべての学校に連絡いたしまして、希望をとりまして、すべてできるだけですね、活用するようにしております。例えば、これまでも先ほどの空調機あるいはロ

ッカー、それとあと図書室の机、いす、書架ですかね、そういうものをずっと有効活用してきております。ただ消耗品につきましては、今現在武雄のほうは各学校に予算を割り振ってですね、それぞれ使っていただくという制度をとっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの共有化、共通化は僕も賛成なんです。これね、新たにシステムをつくるよりは、せっかく学校長の場合は校長会とかやってるじゃないですか。だからその場でね、今度運動会があるけんがちょっと貸してくれんねとかっていうので、そこの校長会の、学校の場合ね、校長会という平場で話して済むような話なのかなというふうに思いますね。

これは先ほど部長が答弁したように、やっぱり学校別に予算をしとかないと、そこでやっぱり過不足って出るんですよ。ですので、ただそうは言っても、じゃあ全部足りている状況だと、全体として見て物すごく余る状況もあるんで、特にテントなんかはそうですよね。

だから繰り返しになって恐縮ですけども、校長会で日程とかわかるじゃないですか。今度、今週末も運動会あって僕は武内小学校で走りますけれど、あとは結構ずれている部分もあるので、そこはよくね、横の連携を、ITじゃなくて人の連携でね、対応していただければありがたいなというふうに思っています。これは共通化、共有化については大賛成です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。学校という範囲内だけでなくですね、市役所、庁舎内、ここにもいろんな課があります。ここも同じようにできるのかなというふうに思いますので、そういった点もあわせて検討いただければと思います。

今回ですね、給食室の分でですね、いろんな給食ということで私も調べてました。資料見たりとかですね、いろいろ調べてました。特に給食という面では今、若木小学校がスーパー食育スクールというふうな形で取り組みをされてて、子どもたちの栄養管理であるとか、体の健全育成に向けての管理とか、そういったことをタニタさんが入ってされてるということで、文科省の指導で今後の学校における食育のあり方に関する有識者会議というのがあって、これメンバーを見たら学校関係者から、いろんな民間企業から、まさに官民一体をちょっとされているなというふうに思ったんですよ。そのメンバーにもタニタさんが入ってらっしゃいます。ちょっと私個人のあれなんですけど、若木にもちょっと来られているという部分で、せっかくなんでまあ、あのタニタさんですからなんかちょっとうまく連携がとれることもないのかなというふうにちょっと思いましたが、この点いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

タニタ食堂はいいですね。私も何人か知人友人がいますので、ちょっと話してみますよ。できれば給食を監修していただくとかね、あるいは楼門の一部分が空いてますので、そこに臨時に入っていただくとかね、来年楼門100周年でもあるんで、例えばそこにタニタ食堂が、あの当時100年前に食べていたものを再現して出すというだけでも相当インパクトがあると思うんですよね。ですので、そういう意味で官民一体というパートナーとしてタニタさんはすごくいいなと思っていて。でもこれ相手がある話なんで、しかもこれ結構みんな見えますので、これ言った瞬間にのけぞる可能性もあるんでね、この話はなかったことにしてください。（笑い声）

○議長（杉原豊喜君）

1番豊村議員

○1番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね。私も個人名というか、そこどうかなと思ったんですけど。ちょっとまあ思ったところだったんで言わせていただきました。

官民一体ということですね、最初に地域協議会というところも言いましたが、メシが食える大人ということでもあります。ちょっとここで、教育についてのまとめた部分ですね、もう一点だけちょっと伺いたいのはですね、ビジョンとしてですね、市長、実際に子どもたちをどういうふうな大人にしたいのかという、その1点ちょっと答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まずビジョンは、メシが食える魅力的な大人。きょう傍聴に来ていただいている皆さんたちとか、多くの議員の皆さんたちのような、メシが食える魅力的な大人を——そんな目、下げなくてもいいですけど——そういう大人をぜひね、武雄からつくり出したいというふうに思っているんですね。それと、やっぱり借りたものは返すと、ちゃんと。いうのも、いや特定の方言ってるわけじゃないですよ。借りたものを返すというのは絶対なんです。それは約束を守ることなんです。約束を。今なぜ大人がね、子どもたちから信用されてないかっていったときに、よく聞くのはね、約束守らんもんねっていうのをたまにこう聞くんですね、約束を。これ約束ってすごい大事で、それをきちんとやっぱり返すということはすごく大事。そのために、じゃあそれを押しつけじゃなくてね、小学校の低学年からそれが自動的になるように、月曜日になれば学校に行きたいと、だから世界一行きたい小学校をつくっていくと。これは別に官民一体学校じゃなくてもいいと思うんですよ。そりゃあ地域の事

情とかありますので。ですが、そういう小学校づくりを、ぜひしていきたいと思います。これができるのは今しかないんですね。なぜかという、教育長が浦郷さんだからですよ。あるいは代田さんが来ています。あと溝上部長がいます。そんな顔伏せなくていいですよ。(笑い声) ですので、今それとこの議会なんですね。今、議会が、いろんな病院問題があったりとか、図書館問題があったりとかして、さまざまやっぱりこう考え抜かれてきておられて、今ちょうどいいタイミングなんですよ。そのタイミングで、今、いろんなことを打ち出しているということでありますので、この機会を逃したらもう武雄はもう無理だと思います。そういった中でいい環境を、これこそ官民一体でつくっていくというのが——広い意味でね、つくっていくというのが私のビジョンになります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね、私もしっかり子どもたちの見本となるように、まずは、私たちがしていけないといけないなというふうに思います。

では時間も限られてますので、質問を続けていきます。次に2番目の大項目の観光についてです。

まず保養村について、これ保養村スカイバスのぼるくんで上がって、上から撮ったところ。これは宇宙科学館です。そのスカイバスのぼるくん、8月いっぱい運休になりました。知らなかったという御意見もありますが、この点についてですね、その経緯とまた今後についてどう考えられてるのかというのを回答お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部長

○北川営業部長〔登壇〕

スカイバスのぼるくんの現状と、これまでの経過並びに今後の取り扱いということでございます。このスカイバスにつきましては平成5年に設置をいたしまして、これまで多数の利用をしていただいたところですが、ピーク時は平成12年度に1万7,559人の御利用をいただいておりますけれども、平成25年現在では4,699名というような落ち込みになっております。設置をいたしまして、もう既に21年を経過いたしております、非常に経年劣化が激しくございます。車両、レールを含めた大幅な改修が必要ということでございまして、毎年点検をしていただいているんですけれども、昨年の点検報告の中でもこのまま運行継続をすれば、利用者の安全を確保できないというような報告も上がってきております。そういった経過の中で、ことし9月の1日から宇宙科学館のリニューアルが半年にかけて行われるというふうなこともありまして、5月の1日より運行を休止したところでございます。

今後の取り扱いについてということでございますが、この設置につきましては、当初2億円ほど事業費をかけて設置をいたしておりまして、車両及びレールの改修につきましては相当の事業費を要します。廃止の場合もまた、3,000万以上の撤去費用がかかるということでございまして、利用者が減少していく中、改修してからの再開については困難というふうに考えております。代替えの振興策についても、これについては保養村会あるいは保養村協力会に随分お世話になっておりますので、十分協議をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、あれですよ、竹下登総理のときのふるさと創生で、だからスカイバスのぼるくんになったのかなと。（笑い声）ちょっと自信がないんですけど。

そのときはのぼるくんでも——でもこれ、ちょっと先ほど理事から答弁あったようにこれ2億円かかっているんですよ、これ。ふるさと創生の金額って、確か一律1億円だったと思うんですね。1億円で、2億かかってその時点で赤字になって、何でこんなもんつくったんだって。その当時の議員は猛反省すべきですよ。います、ここ、いますね。だから、こういうことをやること自体ね、私はね、もうはっきり言いますよ、犯罪だと思えますよ。だってこれがね、どうなるかっていったら、ふるさと創生基金の中の100万、200万とかでできるんだったらいいですよ。でも、もともと赤字で、さらに赤字で今我々はその利用策について苦しんでいるということで、のぼるくんどころかだるくんになって最近はとまったくんになってますもんね。そのうちこまったくんになります。（笑い声）

ですので、基本的な方向としては解体です、もう。そう思います。残しておくとも、もうろくなことにならない。解体です。それともう一つね、ただ、駅舎を解体していいのかっていう問題があるんで、ここについてはね、例えばレストランに入っただけとか、もう少し広範な利用を——あ、これですね。出させていただいてありがとうございます。だんだん息が合ってきましたね。保養村内の整備として、ここをちょっと解体するというのはちょっと忍びないんで、ここについては先ほど部長が答弁したとおり、よく皆さんたちで話し合っほしいなというふうに思っています。ここ、何かレストランとか入れればいいなあというふうに思うんですよ。そういう意味で、ぜひ、いろんなちょっと使い方を前向きに考えていただくということになろうかと思えます。少なくとも、ちょっとお金はかかりますけれども、私は少なくとも車両、レールについては3,000万かかっても、あと、またかかると大変なことになるので、私はもう予算を計上してでも解体だというふうに認識をしております。これについても別途また保養村協力会の皆さんたちと協議をしていきたいと、このように考えております。ですので、これを歴史の教訓にしたいと思っています。今我々がやっている

こともね、将来見たときに何であんなことをしたんだっていうことになりかねないんで、そこはよく議会の皆さんとその意識っていうのを共有を、きちんと我々は持つておくべき必要があるだろうというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

協力会の皆さんですね、運休となった後どうなるんだろうというのはすごく心配をされました。実際、協力会の皆さんここで従事されてですね、そのお客さんを乗せて降ろしてということも一生懸命されてました。ある意味あそここういつていたらですね、こう見た目にはいい感じではあったんですが、そこがなくなるということで今後の保養村どうなるんだろうかというところが皆さん思われているところです。

先ほど市長も駅舎のほうにレストランという話もありました。この中ののぼるくんが停車を今してるわけなんで、協力会の方もですね、この中でカフェをしたらどがんやろかと。そのバス中乗ってお茶でも飲んでとか、クーラーはあるしという話もあったです。そういったのもありました。ただ保養村ということ考えたとき、ここだけじゃなくてこちら、いわゆるエントランスと昔レンタサイクルを行ってたところですね。ここが今もう閉じた状態です。中はですね、こういうふうに倉庫のような状態になっています。市のほうの荷物があつたりとかしてます。今までレンタサイクルここでやっていた分はですね、先ほどののぼるくんの駅舎のほうに数台持ってきて、そこで貸し出しをされたり対応はされてました。ただ、やはりここは宇宙科学館のすぐそばという分です、まあトイレもあります。やっぱり閉めたままというのはすごくもったいないなというふうに思います。先ほどの駅舎とあわせてですね、こちら宇宙科学館も多くの人が見えていて、市外、県外からも見えられています。せっかくなんで、武雄の観光発信もできるような感じであつたりとかですね。例えば武雄の物産を持ってきて六次産業的な部分であつたりとかですね、そういった活用もできるんじゃないかなというふうに思います。

保養村ということで、武雄温泉保養村第三次整備計画というのがありまして、今年度でとりあえず期限は切れるんですが、次の計画にも入られると思います。ぜひともですね、市のほうとですね、協力会さんとか保養村会さんと一緒になってですね、よく意見交換をしていただいて協力会さんの意見も伺いながらですね、共に保養村をどうするかという形で検討に入っていただきたいと思います。

この保養村、保養っていうのが体を癒すというふうな形はありますが、市長はこの保養村っていうことに関して、保養村の未来予想図というのは市長はどのように考えていらっしゃるのでしょうか。ちょっと大きな質問になりますが、よかったら御意見をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとわかりません。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

確かにですね、先ほど私も言いました。市のほうと協力会さん等々、よく意見交換をしながらというふうな形で言いました。もっといろんな活用もできるんじゃないかなと思います。例えば1人、軸となる方をですね、プロデューサー的な方を置いてですね、協力会さんたちと一緒に運営をしていって、あそこをもっと活用できるようにしたりとかですね、可能性というのはすごく秘めてると思いますので、ぜひとも繰り返しになりますが協力会さん等と一緒に意見交換をして進めていただきたいと思います。

ちょっと1点ですね、保養村にボート乗り場があります。あそこでバーベキューをしたりとかボートがあつたりとかするんですが、あそこがですね、すごく使われてる方のモラルの問題があるということで、こういったゴミをそのままにして帰られてたりってのがですね、数多くあるということで、ここで従事されている方もすごくその辺は怒ってらっしゃるともあります。この辺はテレビを見てらっしゃる方もですね、ぜひともこういった点に関してはですね、少し意識をしていただいて、保養村、皆さんの武雄の中心の公園としてもですね、きれいに使っていただけたらと思います。

続きまして、今後の観光政策についてということで伺います。市長が今度観光協会の理事長になられたということで、私も旅館関係者の方何人かとですね、いろいろな話をしたんですが、すごく期待しているというふうな声を複数伺いました。もちろんその旅館関係者の方たちも協会の会員さんなんで、一緒になって頑張ってる動いていていただかないといけないんですが、この観光協会、新しくなった体制でですね、市長が理事長となられて、今後これまでと違って強化していきたい観光政策であつたりとかですね、取り組んでいきたいこと、そういった点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの保養村なんですけどね、まあこれわかりませんと言ったんですけど、その行く末は多分ね、私が云々言うよりはそれは結果だと思うんですよ。そのために私はその——例えば私はよくあそこランニングします。保養村のあの池ね。やっぱりしんどいなと思っているのは段差があつたりとか、あるいは暗いところがあつたりとか。だから我々行政が果たす役

割というのは、あそこ結構やっぱり散歩が多い、あるいはランニングが多くなっているんで、一定明るく照らしてあげるというだけでも随分変わってきて、今度そこに集まった人たちがまた前向きなことを考えてくださると思うんですよね。だから行政の役割というのは、多分ね、何とか計画でそのビジョンをぼんって上げるんじゃないくて、その考えていただくための環境をつくるんだらうという黒子の役に徹すべきだと僕は思うんですよ。その上で先ほどあったような話し合いで、じゃあこういうふうにやっついこうよというのがこれからの、僕は観光政策の流れだと思うんですよね。

そういう意味で観光協会の会長に、もうこれ嫌々です、もう本当。こんなに嫌な役割が回ってきたかというぐらいにこれもう嫌な役割で。もう無給ですもんね、まず。大坪さんすごいと思いますよ。無休でしょ、給料がない無給と休みがない無休ですから。

これ僕が思うのは、これはもういろんなところで申し上げていますが、今行政の中に観光部隊というのがあります。観光協会の中にも観光というのがあるのでこれを一体化させるということは、この2年間のうちに必ずやります。一体化して、もう観光協会ですべて、やっぱり民が観光を担うというのは僕は筋だと思っんですよね。行政はさっき言ったような環境を整えるということが大事だと思っんで、その中で観光協会の収益事業をぜひ立てると。収益事業を立てていくようなプランを出していきたいと思っます。これちょっと1年から1年半ぐらいかかるかもしれませんけれども、ここはよく観光協会の中で、これこそ話し合っていきたいというふうに思っんですね。だから観光協会が自腹で稼いだものを、例えば今度いろんな事業にまた投資していくということも、あるいは人を雇うと。さっきおっしゃられた保養村のプロデューサーを雇うということについても、観光協会が一定自立できるようにしていきたいなということも思っっています。

そして一応最後にしますけれども、あとやっぱりインバウンド、やっぱりすごいですね。今シンガポールに笠原所長、一人所長が行ってますけれども、彼が武雄の売り込みが物すごく、また今度観光客がお越しになるんですよ。しかも、かなり裕福な。しかもその本当に本物を見たいと。例えば中島宏さんに会いたいかって言うそうなんですよ、もう。そういうお金をいっぱい落としてくださる層が今後武雄に逐次お見えになるというところなんで、2つあるんですね。

まず……（発言する者あり）ちょっとすみません、答弁してますよ。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

まずね、インバウンドで持ってくる。要するに、観光集客ですよね。だからシンガポールを中心として今笠原さんが頑張っていますので、それを武雄につなぐってのも観光協会の役割だと思っんです。それともう一つがその裕福な層がお越しになったときに、また来たいと

思っただけのことを、これはもう行政じゃなくて観光協会が中心となってね、していく必要があるだろうというふうに認識をしていますので。そういう意味で、今ミシュランの5レッドパビリオンの竹林亭の小原さんの存在は非常に大きいと思います。それと、これもミシュランの池田さんですね。こういう次の世代の人たちがね、観光を担っていけるように私は太いバトンタッチができるようにしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

そうですね。最初言いましたように、期待するだけじゃなくて、ともに動いていかないといけないと。私もやっぱり民間自身がどんどん活力持ってやっていくっていうことが、一番必要なところかなというふうに思います。

関連してですね、先ほどシンガポールというふうな話がありました。以前私の知り合いから聞いた話で、武雄のある居酒屋さんで外国の方が飲まれていたと。どうやってここを知ったんですかと聞いたら、その国の方がネットで情報を発信をされてて、それを見て来ましたという話がありました。IT委員会等でも出るんですが、そういった意味でですね、やはり観光地でのWi-Fiの整備、それによって海外の方が来て自分たちで情報を発信をして、SNS等を通じてですね、やはり見る側も、同じ境遇の人が発信してる情報というのはすごく親近感が湧くと思うんですよね。そういった意味でも、やはりそういった整備というのはあわせて必要になってくるのかなというふうに思います。その点。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは絶対必須で、牟田議員も再三繰り返しておっしゃっていますけれども、Wi-Fiの環境というのは絶対大事。しかも私もオルレ何回か行きましたけれども、特に韓国のお客様はその時点で撮ったものをすぐフェイスブックに上げたいというのが多分私たち日本人よりも強いんですけど、ちょうど、あそこの保養村の先のところからWi-Fi入らなくなるんですよね。そうなったときに、公衆のものは当然ありませんので、ちょっとかなりがっかりされてたのがあったんですね。ちょうど、2年前に濟州島、チェジュ島でオルレに行ったときに、どこでもやっぱりつながるんですね。我々も来たというところでチェックインを自由にしたとかできるんで、このWi-Fiの環境を本当に整えることは絶対に必要だと。

幸いにして古川知事がこれ非常に理解を示されていて、半分は補助するということの制度もありますので、県と一体となってこのWi-Fi環境を整えていくと。そのときに、遅いやつだと、またストレスの原因になりますので、牟田IT特別委員長がおっしゃっているように高速のWi-Fiをポイント、ポイントに入れることによってさらに発信を——我々だ

けじゃなくて、来られた観光客の方が、同じ韓国語あるいは中国語でできるようにしなければいけないかなというふうには思っていますので、これはちょっと本腰入れてやりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

ありがとうございます。やはり同じ境遇の方の情報というのは先ほど言いましたように、より親近感が湧くものでもありますので、ぜひ整備のほうを進めていただきたいと思います。

最後になります。観光という面で、ツアー的な部分のですね、ちょっと遠いところ、例えば関西とか海外から来ていただくというふうなところもあるんですが、それと別でですね、そういう観光的な意味合いというよりも生活圏として、そういう意味で近隣とどうつながっていくかっていうことが、それも一つあるのかなと思います。西九州のほうが将来的にこういうふうな形になると。

先日、私も平戸のほうに用事でいきましたが、西九州道、途中まであって、以前よりも大分何か来やすくなったというふうな感覚がありました。例えば、車社会ですから、1時間圏内とかですね、そういったところは観光というところもなんですが、生活圏内というふうにもなり得るのかなと思います。

例えば、私は佐世保出身ではありますが、こっち来て思ったのがですね、俺も昔佐世保におったよとかって言う方が結構いらっしゃるんですよ。ていうことは、そっちに知り合いがいっぱいいらっしゃる。近隣はそういったところが、たくさんあると思います。もちろん仕事でも行ってらっしゃると思いますし。近い人は、生活圏内として、武雄に来ていただければですね、それだけ頻度としても、遠いところの人よりもリピーターとしての頻度は高くなりやすいという面もあるのかなと思います。という分で、近隣地への情報発信っていうのをどんどん進めていってもいいのかなと思います。

例えば、佐世保の四ヶ町島瀬公園に、昔あった青いバスをドーンと入れてですね、そこで特産品のイベントをやったりとかですね。逆に佐世保のアメリカンフェスティバルみたいなのをこっちで行ってもらって、そういう向こうの人がこっちに来て武雄を実際体感していただいたりとかですね、そういうのもあると思いますが、近隣地とのそういった意味での連携というかですね、どんどん情報発信を進めていく、こういった点も必要と思いますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに観光は境目がありませんのでね、そこは有効かと思うんですが、ただね、これあま

り魅力がないと思うんですよ。ていうのは、やっぱり観光客の皆さんっていうのは自分のところにはないものを見に来られるということなんで。例えば、佐世保の皆さんたちがお越しになったときにね、それは武雄の温泉に、あるいは図書館にお見えになることであって、そこに佐世保の何とか祭りとかがあっても、武雄の人たちは喜ぶかもしれないけれども、それで連携にはならない。

したがって、近隣地への情報発信よりは近隣地と組んで魅力的な発信をすると。要するに豊村議員さんとか私が手間暇時間を割いていきたいというコンテンツを出していくって。だから、武雄市図書館が成功したと。山口昌宏さんという議員がいますよ。あの人がいみじくもおっしゃったように町の中に図書館をつくったつもりが、図書館の中に町ができてるっていうのを最初から言ってたんですね、あの顔して。ですので、そういうことで、だからあそこに多様性の象徴として、いろんな方々がやっぱりいらっしゃるということからすると、我々がやらなきゃいけないのは魅力的なものを出していくということだと思いますので、ぜひ、そういう意味では豊村議員さんの類いまれな——よくわかりませんが、そのお力をぜひ、お貸しいただいて、これも官民一体となって、観光、あるいは、情報発信ができればいいなど、このように思っています。

そういう意味で豊村さんがいつもフェイスブックでね、発信されてること自体が、武雄への人・物・金を集めているということについては、それは率直に感謝をしたいなとこのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番豊村議員

○1 番（豊村貴司君）〔登壇〕

今議会でも言葉として出ました、非日常、それがやはり大事だと思います。観光協会の分での政策という部分でも民間がどんどんやっぱり動いていかないといけないというふうに言いましたが、この観点でもですね、結局同じ事だと思います。みんなが一緒になってやっぱり盛り上がっていかないと、近くてもやっぱりそれは来ないというふうになりますので。どんどんその辺ではですね、武雄市全体が官民一体となって盛り上げていくことが大事かなと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で1 番豊村議員の質問を終了させていただきます。